



整備 藤岡大胡線 バイパスの 進捗状況は

「私の視点」

藤岡大胡線バイパス滝川以南の整備と、藤岡大胡線本線の狭小で危険な角淵地区内の歩道整備を県に早急に要望すべきと思うが、進捗状況は。

答弁（町長） 早期事業化を県へ要望していく

問 藤岡大胡線バイパス整備事業は、滝川まで拡幅工事が進んでいるが、そこから南への事業計画はどうなっているか。

答（町長） 本来、県が実施する事業であるが、上飯島交差点から滝川までの間は町で整備を行った。滝川から南、岩倉橋までの間の計画は、県が策定した県土整備プラン2013において、令和4年度までに着手予定の事業になっていたため、バイパスに接続する町道103号線の道路改良事業を進めている。

しかし、近年の頻発化・激甚化する災害に対応するため、県は利根川堤防強化などの防災対策を優先的に進めることとし、県土整備プラン2020における藤岡大胡線バイパスの位置付けは、「着手に向けて検討する事業」となった。町として藤岡大胡線バイパスは、地域間連携の強化に重要な路線であり、早期の事業化を県に対し要望している。

問 藤岡大胡線本線は非常に狭い上に、トラックなどの大型車が往来し、歩行者や自転車で通るには、相当な危険箇所だ。この要望等はどうか。

答（町長） 現道の藤岡大胡線岩倉橋北の角淵地区内の歩道整備について、県土整備プラン2020では、「歩行者や自転車の安全な通行を確保する」ことを目的として、令和6年度までに歩道整備を着手する予定となっている。今回、不幸にも自転車死亡事故が発生し、改めて早期の事業化を群馬県に強く要望したところである。



歩行者や自転車で通るには危険な藤岡大胡線。岩倉橋北角淵地区内の歩道整備の早期事業化を

社会体育館の利用状況と管理

問 今年度から指定管理となった社会体育館は、利用者からきれいで快適だと評判がよい。アリーナやトレーニングルームの利用状況、グラウンドやトイレの管理状況はどうか。

答（教育長） 4月から7月時点での利用者数を前年度と比較すると、アリーナが前年比25%増、トレーニングルームは器具が更新されたこともあり、前年比59%増となっている。グラウンドの管理については、今後の利用形態も考慮し、屋外トイレの撤去や改修等も含め協議していく。土手やグラウンドの除草作業も早急に対応したい。



交通 公共交通の 実証実験の 見通しは

「私の視点」

高齢社会に向けて、車がなくても暮らせるまちづくりは急務である。町は、交通弱者への対応に本腰を入れるべきだ。

答弁（町長） 町全体を対象した実証運行を検討

問 町は公共交通の見直しを進めている。移動に関するアンケートや実証実験の見通しは。

答（町長） 町ホームページに一般向けのアンケートを掲載するとともに、タクシー利用補助券利用者や中学生等の保護者などにアンケート調査を実施し、様々な町民ニーズを把握することができた。また、実証実験については、交通事業者との調整を進めながら、町全体を対象とした実証運行について検討していく。

問 デマンド型交通は、事前予約で運行する需要応答型交通システムである。本町の立地条件に適しているのでは。

答（環境安全課長） 町内の移動については、定時定路線よりもデマンド型交通のほうが自由度は高いが、デマンド型交通とタクシーのすみ分けは必要であると考えている。

フェリーチェ学園との包括連携協定

問 町は、令和5年5月に国際教育特区認定校である「フェリーチェ玉村国際小学校」と包括連携協定を締結したが、その連携事項は。

答（町長） 今回の協定締結以前から、町立保育所の年長・年中児を対象とした「えいごあそび」や町内小中学校や県立女子大学の英語主任と英語指導法の研究や情報共有等を行っている。そうした互恵関係を継続し、地域社会の発展、人材の育成等のために協定書を取り交わしたものであり、連携協力して行う事業は既に行われている事業が基本となる。



町立小学校と英語を通じた交流を深めている「フェリーチェ玉村国際小学校」

本町も「5つのゼロ宣言」を

問 県が進める「ぐんま5つのゼロ宣言」に12市町村が対応している。玉村町も取組を進めてはどうか。

答（町長） 5つのゼロは、①自然災害による死者ゼロ、②温室効果ガス排出量ゼロ、③災害時の停電ゼロ、④プラスチックごみゼロ、⑤食品ロスゼロを掲げている。現在、環境基本計画や地球温暖化対策実行計画において、ぐんま5つのゼロ宣言に沿った形で総合的・計画的に地球温暖化防止に向けた取組を推進しているところである。今後、5つのゼロ宣言の表明に向け、具体的な研究、準備を進めていく。

